



山陽スピリット ニュース No.35

2024(令和6)年9月1日

発行：学校法人 山陽学園 広報・山陽スピリット推進室

愛と奉仕と感謝

「山陽学園の歴史を 後世に繋ぎたい」

元山陽学園中学校・高等学校教諭

オリーブグリーン劇団

座長 久磨祥子

私は1977年山陽女子中学校・高等学校に教諭（教科数学）として就職し、2015年3月に定年退職し、引き続き非常勤講師として2020年3月まで勤務しました。

山陽学園教職員OB会（通称OB会）は、山陽学園中学校・高等学校を退職した教職員の会です。私は2015年よりOB会の一員となりました。現在OB会はコロナ禍の2020年より未実施です。

山陽学園創立130周年という節目の年2016年に、OB会で何か記念になる文化的な行事はできないかと相談しました。そして、OB会有志で劇を作り「創立者たちの志を継いで、皆様の誇り高く生きるための糧となり、山陽学園が皆様に愛されますように」という願いを込めて劇団を立ち上げました。

そこで、当時学園史料室（現在は資料館）勤務の岩本奈緒子先生が原作者である「山陽学園創立物語」を前々校長熊城逸子先生が中心となって有志で脚色し、劇に仕立て上演しようと話はすぐまとまりました。

私は学校との交渉係兼座長を引き受けることになりました。

こうして私達オリーブグリーン劇団の活動が始まり、創立当時の歴史をできるだけ忠実に脚本化しシナリオを作成し、2019年までの4年間毎年みさお祭で上演してきました。

私達の劇団は、観劇は好きでも演劇経験の無い素人ばかり、演技以前に台詞覚えも本番でやっという感じでした。衣装はほとんど各自の自前か持ち寄りです。月2回の練習日にはほとんどの団員が都合をつけて出席していただきます。それは、副座長の上代万里江さん（上代淑の孫）が東京から新幹線で月2回の練習に来られ、私達は申し訳なくて休むことができないからです。

初年度2016年の劇「山陽学園創立物語」は、女子が自由に学ぶことができなかった明治時代に山陽英和女学校が岡山の地に開校するまでの物語です。4月のOB会公演は9月のみさお祭公演を念頭において実施しました。初めてのシナリオは苦勞しましたが、旧教職員戸田多栄さんや石原律子さんの協力もあり何とか作成でき、配役もOB会の吉永瑠美先生他が参加してくださり、無事終えることができました。また、9月のみさお祭公演では演劇部3名の生徒さんも参加してくれました。

直前には山陽新聞に記事を書いて頂き、当日は多くの学園関係者同窓生も観に来てくれました。

そして、公演後の反省会では「来年も山陽学園の創立以来の歴史を続けてみさお祭で上演しよう。」と決定しました。



2016年山陽学園創立物語

2年目の2017年も4月の「山陽学園物語2017」OB会公演を実施し、9月のみさお祭公演では役者の声が観客に届くように会場は教室で実施しました。この劇は学園創立から上代淑先生が留学先のアメリカマウントホリヨーク大学へ旅立つまでのエピソードを脚本化した物語です。

3年目の2018年は校歌制定120年の年を記念し「山陽学園物語～のどけきはるの～」をみさお祭で上演しました。この劇は学園創立から上代淑先生のマウントホリヨーク大学留学中や帰国後校歌制定までのエピソードやきざはしの式の由来などを脚本化した物語です。



2018年山陽学園物語～広く世のためはらからのため～

4年目の2019年は、「山陽学園物語～広く世のためはらからのため～」をみさお祭で上演しました。この劇は上代皓三先生（山陽学園短期大学初代学長）が体育館で全校生徒に学園の精神を講演されているという設定で物語を展開し、学園創立から1936年創立50周年記念の長島愛生園山陽高女寮寄贈までを脚本化した物語です。

その後、コロナ禍で2020年から2022年の3年間劇団活動は中断せざるを得ませんでした。



これまでのオリーブグリーン劇団の活動

- 2016年4月 「山陽学園創立物語」 OB会公演
- 9月 「山陽学園創立物語」
- みさお祭オープニング公演(体育館)
- みさお祭公演(新本館一階フロア)
- 2017年4月 「山陽学園物語2017」 OB会公演
- 9月 「山陽学園物語2017」
- みさお祭公演 (新本館教室)
- 2018年9月 「山陽学園物語～のどけきはるの～」
- みさお祭公演(新本館教室)
- 2019年9月 「山陽学園物語
- ～広く世のためはらからのため～」
- みさお祭公演(新本館教室)
- 2023年12月 「山陽学園物語137」 記念館公演

そして、創立137周年の昨年2023年12月8日「山陽学園物語137」を念願の上代淑記念館で上演することができました。午前高校一年生、午後中学生の2回公演でした。

有難いことに、前日7日の山陽新聞朝刊都市版に私たち劇団の記事「山陽学園の歴史 劇に」が掲載されました。その一部を紹介します。

「(前略)…『灰の中から立ち上がりましょう』。舞台は1945年。岡山空襲で全校舎焼失に見舞われた上代淑が、うなだれる生徒たちに力強く訴える。演じるのは孫の万里江さん(東京在住)『困難に屈せず、教育に努めた上代淑の奮闘ぶりを伝えたい』と意気込む。…(後略)」

今回の公演はオリーブグリーン劇団の集大成の公演でした。この劇は、髭の中川横太郎氏(役者 森安美保先生)の岡山弁の語りで始まり、上代淑先生(役者 上代万里江さん)の「山陽の未来は生徒の皆さんに任せましたよ。」の言葉で終わります。

これまでのみさお祭公演の4冊のシナリオを再編集し、新たに岡山空襲と復興のシーン及び現在までの映像を含め45分間の演劇に仕立てました。

中でも岡山空襲のシーンは淑先生の孫の上代知夫氏(役者 高都佐代子さん)が父親皓三先生に送った手紙に基づき脚色しシナリオを作成しました。

上代記念館のステージということで、これまでの公演の体育館ステージや教室と比べ照明や音響機器やプロジェクター操作のスタッフも必要でしたが、照明は村上修先生、音響は渡邊隆之先生、映像は学校司書田中麻依子さんと資料館大森由理さんに協力いただくことができ大変感謝しております。

観劇いただいた生徒さんの感想をいくつか紹介します。

「岡山空襲のシーンが、演技、照明、スモーク、音響など迫力があり、もっとも印象に残った。」
 「役者全員演技が上手い。」「楽しそうに演技していて見ていて楽しかった。」「劇の構成が素晴らしく最初から最後まで集中して観ることができた。」「楽しく山陽学園の歴史を学ぶことができた。」などでした。中には「劇団に入りたい」と書いていた生徒さんもいて驚きました。

また、「日めくりの上代先生の言葉の起源の場面が印象的で、上代先生が今も慕われている理由が分かり、いつもの日めくりに別の意味を感じました。世間の批判や岡山空襲に負けず女子教育の機会のために守り抜かれ支え続けられた山陽学園に敬意を払い卒業まで大切にしていこうと思いました。」という男子生徒の感想には感動しました。

最後に、昨年12月8日上演の機会をいただいたことに感謝しますとともに山陽学園が皆様に愛され続けられますように願っております。



2023年 山陽学園物語137 キャスト

(後列7名左から)前田紅理、小林徳子、高都佐代子、田中麻依子、村上修、土谷三枝子、渡邊隆之 (中列8名左から)栗山敬子、角南知子、吉迫京子、上代万里江、森安美保、野上信子、中桐紀子、熊城逸子 (前列6名左から)林直美、清原昌子、久磨祥子、小野純子、磯部琴美、真田紀子

上代淑先生遺訓「日々のおしえ」

- (1日) 美しい日は美しい月を 美しい月は美しい年を
美しい年は美しい生涯を
- (2日) 清く正しく あかるく強く 心に愛を育てよう
- (3日) 夜の眠りに「明日こそは」 朝のめざめに「今日こそは」
- (4日) さわやかな挨拶 あかるい一日
- (5日) 人のために尽くす事こそ 私達のよろこびである
- (6日) 重荷を負う人に 手をかしましょう喜んで
- (7日) 近所隣へ思いやり 愛の種を蒔きましょう
- (8日) 事ごとに感謝し 祈りましょう
- (9日) 車掌さんにも 運転手さんにも「ありがとう」
- (10日) 老人や体の不自由な人に すずんで席をゆずりましょう
- (11日) 与えた親切忘れても 受けた親切大きく感謝
- (12日) 辛抱第一何くそで
- (13日) はたらけ はたらけ 苦労は心の糧になる
- (14日) 「から手であるな」首をひねって手を働かせ
- (15日) あたえられた仕事は 五〇センチ向こうまで
- (16日) さっさ せっせと働こう 手のあれたのはあなたの誇り
- (17日) あなたの最善今すぐに
- (18日) 美しい行いは 美しい心から
- (19日) ねたまず 憎まず たかぶらず
- (20日) 逢う人ごとにやさしい思いと やさしい行いを
- (21日) 礼儀正しく清潔に 言葉づかいはていねいに
- (22日) 素直な心で明るい返事
- (23日) 無駄なおしゃべり禍のもと
- (24日) 道や広場を清潔に
- (25日) 整頓は人目につかぬところまで
- (26日) 物の命を大切に
- (27日) いらぬガス消せ電気消せ 水一滴もむだにすな
- (28日) 使ったものは元の場合へ 借りた品物すぐ返せ
- (29日) 「アイロン・スイッチ」 「アイロン・スイッチ」
これ忘れたら大火事だ
- (30日) いつでも後をふりかえれ しのこさないか 戸締まりよいか
- (31日) 広い大空のように ゆたかな心を

(山陽スピリット推進室)